

屋外用キャビネットの風雨性能評価基準制定と
対象商品のご案内

内容

近年、地球温暖化の影響などによりゲリラ豪雨、台風的大型化に伴う暴風雨など異常気象が多発しています。屋外に設置されるキャビネットは雨と風の影響を同時に受けており、これらの異常気象に耐えうる性能の要求が高まっています。

従来、キャビネットの防水性能は、IP性能(防塵・防水性能)で評価しています。これに加え、実際の自然環境を模擬し、風と雨が同時にキャビネットに与える影響を評価するためIP性能とは異なる**風雨性能評価基準**^{※1}を制定しました。

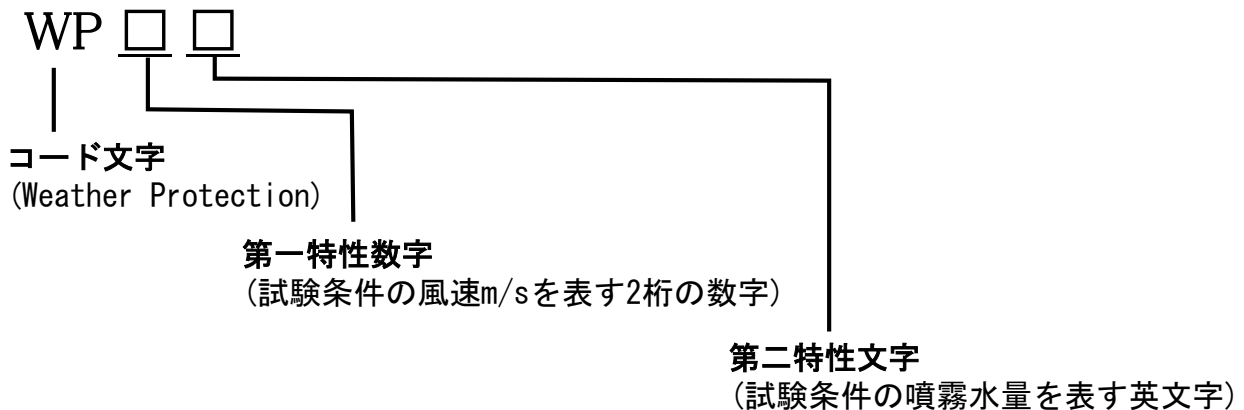


〔風雨試験例〕

※1 一般財団法人建材試験センターと
国立研究開発法人防災科学技術研究所の
ご協力をいただき評価基準を定めました。

この評価基準は、風と雨の同時性を考慮した一般財団法人建材試験センターの団体規格「キャビネット及び宅配ボックスの水漏れ試験方法(送風散水試験法)」(JSTM W 6401:2020)に基づき検証を行い、製品に付与できる風雨等級を記号(WPコード^{※2})で表示するものです。

※2 WPコード(Weather Protection)



第一特性数字

数字	風の強さ	屋外・樹木の様子
10	やや強い風	樹木全体が揺れ始める。電線が揺れ始める。
15	強い風	電線が鳴り始める。看板やトタン板が外れ始める。
20	非常に強い風	細い木の幹が折れたり、根の張っていない木が倒れ始める。看板が落下・飛散する。道路標識が傾く。
25		
30		
35	猛烈な風	多くの樹木が倒れる。電柱や街灯で倒れるものがある。ブロック壁で倒壊するものがある。
40		

引用元: 気象庁「風の強さと吹き方」

(https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/yougo_hp/kazehyo.html) を加工して作成

第二特性文字

文字	噴霧水量	説明
L	毎分2L/m ²	近年多発している記録的短時間大雨 約 120 mm/h 雨量に相当
M	毎分4L/m ²	JIS A 1414-3及びJIS A 1517で採用, 40 mm/10min, 240 mm/h 雨量に相当
H	毎分6L/m ²	気象庁の10分間雨量観測値の極値 (51 mm/10min= 306 mm/h) を超える 60 mm/10min, 360 mm/h 雨量に相当

風雨が強い場所の例



ORZ ORZ形屋外用
ORZB キャビネット(片扉タイプ)



風雨等級
片扉WP40H

■ 両扉タイプは除く。
2020年5月より対応

SCL ステンレスSCL形
ボックス



風雨等級
WP40H

2020年9月より対応

RA-DB 屋外用熱対策
制御盤キャビネット



風雨等級
WP40H

2020年9月より対応

SCF ステンレスSCF形
ボックス



風雨等級
WP40H

2020年9月より対応

RCP 屋外用熱対策
RCJ 通信キャビネット(冷キャビ)



ポール用



自立用

風雨等級
WP40H

■ ファン仕様 (RCP-T-F・RCP-Y-F・RCJ-Y-F) は除く。
2020年9月より対応

PL PL形プラボックス



風雨等級
WP40H

■ ファン仕様 (PL-KA) は除く。
2021年4月より対応予定

(補足) 対象商品追加により改定

初版	2020年3月	改1	2020年10月
----	---------	----	----------